

基礎研 レター

ねんきん定期便はライフプラン設計を改善するか？ インターネット調査を利用した検証

金融研究部 主任研究員 北村 智紀
(03)3512-1854 kitamura@nli-research.co.jp

1-はじめに

本レポートは、「ねんきん定期便」によって家計のライフプラン設計が改善するか予備的な分析を試みることにより、ねんきん定期便の効果を測る検証の可能性を示すことである。

ねんきん定期便は誕生日月に国民年金と厚生年金の加入者全員に、加入記録や年金見込み額等を通知する制度である。ねんきん定期便に関連する法律は2004年に整備された。2007年に年金記録問題が起こり、この問題への対応策として、ねんきん特別便が年金受給者・加入者全員に対して送付された。2009年には加入者全員に対してねんきん定期便が送付されるようになった。ねんきん定期便は2015年では6,419万件が送付され、約63億円の多額な費用がかかっている(厚生労働省, 2016)。2011年からは、はがきや封書の郵送による通知の他に、インターネット上で加入記録等を参照できるねんきんネットのサービスが開始された。将来的には、提供する情報の量・質の向上と郵送よりもコストの削減が期待できるが(中嶋, 2017)。それでも、多額な開発コスト等が必要なことが予想される。

ねんきん定期便の記載内容は、受け取る人の年齢により2つのタイプがある。50歳未満の場合の記載内容は、1. これまでの加入記録、2. これまで支払った保険料に基づく予測年金受給額、3. これまで支払った保険料総額、4. 過去1年の保険料納付状況等である。50歳以上の場合、上記の1、2、4については同じであるが、3. 60歳まで現在の給与が続いたと仮定した年金受給額の予測額が記載されている。この2つのグループの大きな違いは、50歳未満での予測年金受給額は、これまで支払った保険料だけにに基づく(つまり、将来支払う保険料は考慮されない)ものであり、実際に受け取るはずの年金額からは乖離している額である。これに対して、50歳以上ではこれまで支払った保険料をベースに、将来支払う保険料も考慮して年金受給額が予測されている。もちろん、50歳以上の年金受給予測額の方がより実際に受け取る年金額に近いはずである。

米国においても1995年より米国社会保障局(Social Security Administration)が、60歳以上の労働者を対象に、公的年金(Social Security)の年金予測受給額の通知が始まった。通知を受ける人は徐々に拡大され、2000年には25歳以上になり、通常は、誕生日の1か月前に通知が送付される。主な通知の内容は、過去の収入の記録と62歳、65歳(FRA:通常退職年齢)、あるいは70歳から受給を開

始した場合の年金額の予測額である。2014年からは、年1回から5年毎の通知に減らして、インターネットの利用を促進している(中嶋, 2017)。

Mastrobuni (2011)は、この米国における年金通知に効果があるかについて、1992年から2000年までのHealth and Retirement Survey (HRS)のパネルデータを利用して検証した。その結果、他にも情報があるにも関わらず、年金通知は労働者の年金受給に関する知識を向上させる効果があったことが確認された。しかし、一方で、労働者の退職・年金受給に関する行動には影響を及ぼさなかったとした。この理由として、労働者は既に合理的な行動をしているため、年金通知による新たな情報には反応しなかったのか、あるいは、年金通知の情報が十分ではなく、労働者は行動を変えられなかったのか、どちらが起こっているのか明らかにするまでには至らず、今後も研究の継続が必要だとしている。

そこで、本レポートは、日本のねんきん定期便が家計の行動に影響を与える可能性があるか、独自のデータを利用して分析する。具体的には、ねんきん定期便に関する知識の程度と、働いている人の主観的な公的年金の受給額及び、退職までにどのくらいの保有する必要があると考える金融資産額との関係を分析する。

2—分析方法

本レポートで利用したデータは、筆者等が独自に2016年3月に実施したインターネット上のアンケート調査である。調査はマイボイス株式会社(<http://www.myvoice.co.jp>)の登録会員等を対象に実施した。回答を得た35歳から64歳までの男女2,981人から、配偶者がいる男女1,907人を分析の対象とした。単身者と配偶者がいる場合で、退職までに保有すべき金融資産額が異なることが予測されるためである。

ねんきん定期便に関する質問は、「日本年金機構から、毎年の誕生日に、加入記録などのお知らせが送られてくること」について、知っている程度を尋ね、その回答を、1. よく知らない、2. どちらでもない、3. よく知っている、の3段階に分けて分析に利用する。曖昧な質問事項・選択肢であるが、ねんきん定期便が送られている制度や、その記載内容への理解の程度を表す変数(「ねんきん定期便に関する知識」とする)として分析に利用する。

予測される年金受給額については、60歳後半に受給できる公的年金の受取額(「予測年金受給額」とする)について、1万円単位の選択肢で尋ねたものである。また、自分で退職までにどのくらいの金融資産額を保有しておく必要があるのかについては、老後の生活のために65歳時点で、どのくらいの貯蓄が必要か、1. 必要ない、2. 100万円未満、3. 100万円以上200万円未満、・・・、24. 1億円以上の24段階の選択で尋ねたものである(「65歳時点必要金融資産」とする)。なお、分析では、必要ない(0円)を除く3標準偏差を超える回答は外れ値として除外した。

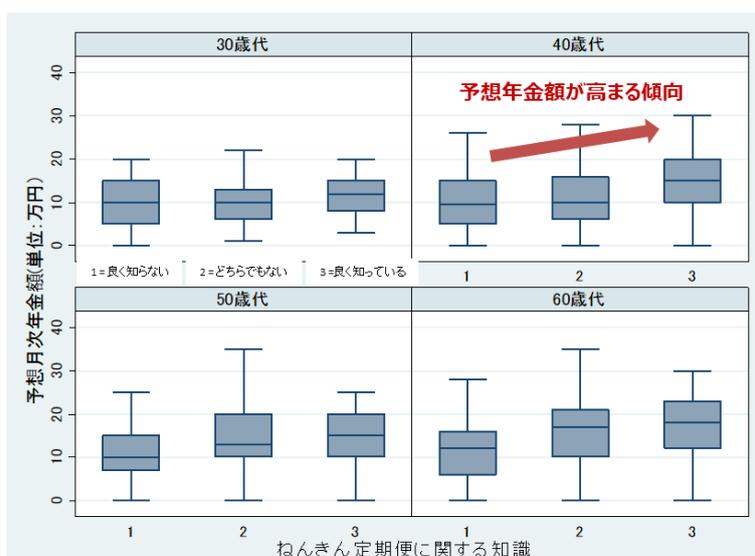
3—分析結果

図表1は、ねんきん定期便に関する知識と、回答者が予測する年金受給額との関係を性別・年代別に表示している。パネルAは男性の予測年金受給額の分布である。ボックス・チャートの真ん中の線は平均、箱の上下は、それぞれ、75%タイルと25%タイルを表し、ひげの上限・下限は95%タイルと5%タイルを表す。30歳代から60歳代の全ての年齢に共通に、ねんきん定期便について1. よく知ら

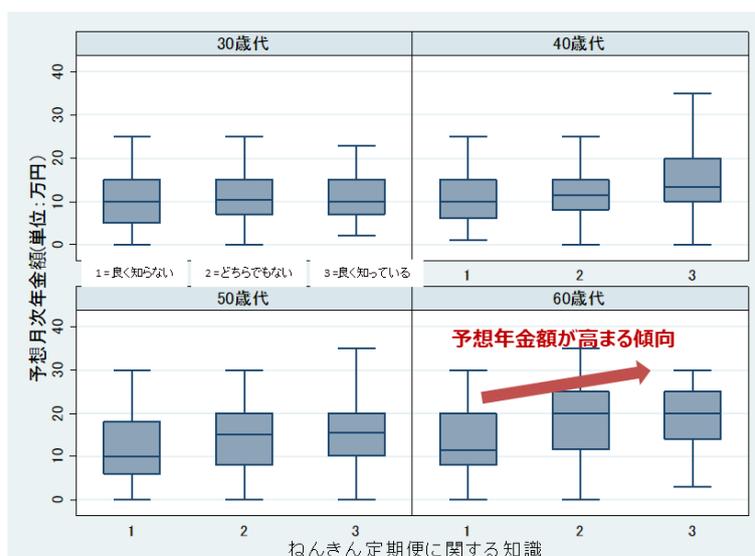
ないよりも、3. よく知っているの方が、予測する年金受給額が多くなっていることが見られる。特に年齢が上になるにつれて、その差は拡大している。パネルBは女性の予測年金受給額の分布である。男性と同様な傾向であるが、男性よりはねんきん定期便を良く知らない人と良く知っている人の差が縮小している。厚生年金の夫婦2人では受給額は概ね20~25万円程度であるので、ねんきん定期便を良く知っている方が、男性・女性ともに、実際の受給額に近い。ねんきん定期便を受け取り、内容を確認することで、年金に対する意識が高まっていると考えることができる。

図表1：ねんきん定期便に関する知識と予想年金受給額の分布（単位：月万円）

パネルA：男性



パネルB：女性



図表2は、1. ねんきん定期便を良く知らない、3. ねんきん定期便を良く知っている人の予測年

金受給額の平均値とこの2つのグループの平均値の差を表している。左側の男性の30歳代を見ると、良く知らない人の予測年金受給額の平均値は月9.5万円、よく知っている人は11.4万円、その差は1.9万円であるが、統計学的には有意な差はない。図表2では、男性・女性共に、40歳台と50歳代で、2つのグループの予測年金額に有意な差が生じている。

30歳代と60歳代でねんきん定期便が予測年金額に影響を与えない理由は、以下のようなことが考えられる。前述したが、50歳未満のねんきん定期便の予測年金額は実際の額から乖離があるものである。30歳代では、保険料を支払い始めて時間が経過しておらず、また予測年金額は実際の年金額から乖離しており、情報としては利用可能性が低いことが考えられる。次に60歳代では、公的年金に対する関心が高まり、ねんきん定期便以外の情報も利用されること等により、ねんきん定期便に関する知識が予測年金額に影響しないものと考えられる。

50歳代では、ねんきん定期便の予測年金額は実際の額に近い額が記載されていることから、ねんきん定期便を良く知っている方が、予測年金額を高いことは期待どおりである。一方で、男女共に、40歳代では、ねんきん定期便の予測年金額は実際の額から乖離しているにも関わらず、ねんきん定期便を良く知っている方が予測年金額が高い。これは、ねんきん定期便に公的年金自体の関心を高める効果があり、他の情報を収集することなどにより、予測年金額に差が生じたものと解釈できる。

図表2：ねんきん定期便に関する知識と予想年金受給額の違い(単位：月万円)

		男性			女性		
		ねんきん定期便 良く知らない	良く知っている	差 (=知っている-知らない)	ねんきん定期便 良く知らない	良く知っている	差 (=知っている-知らない)
30歳代	平均値 N	9.5 31	11.4 42	1.9 (1.3)	11.0 89	10.6 71	-0.3 (1.0)
40歳代	平均値 N	10.8 46	14.2 77	3.4 (1.5) **	11.2 67	13.6 120	2.4 (1.2) **
50歳代	平均値 N	12.1 63	15.0 97	2.8 (1.2) **	12.4 43	15.8 164	3.4 (1.3) **
60歳代	平均値 N	11.6 21	17.7 82	6.1 (1.9)	15.4 22	18.8 92	3.4 (2.6)

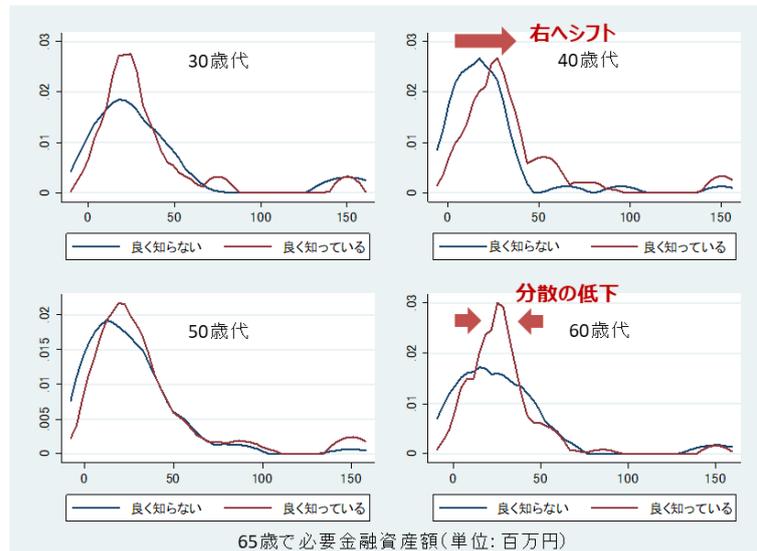
注：公的年金の予想受給月額単位の単位は月当たり万円、***はウエルチ法による平均値の差の検定で1%有意水準、**は同5%、*は同10%を表す。

図表3は、ねんきん定期便に関する知識と、回答者が予測する老後の生活のために65歳時点で必要な金融資産額の関係を表している。性別・年代別にカーネル密度を推計している。パネルAは男性の65歳時点必要金融資産の分布である。30歳代から60歳代の全ての年齢に共通に、ねんきん定期便について1. よく知らないよりも、3. よく知っているの方が、分布が右側へシフトし、また、ちらばりが狭く(分散が小さい)予測が集まる傾向が見られる。特に、40歳代では、ねんきん定期便を良く知っている方が65歳での必要金融資産が高く、30歳代と60歳代では予測が平均付近に集まる傾向がある。パネルBは女性の65歳時点必要金融資産額の分布である。男性と同様な傾向であるが、男性よりもねんきん定期便を良く知る人の分布が右側にシフトし、必要金融資産額が高まっている。ねんきん定期便を受け取り、年金額を確認することで、生活費に対して年金額は不足しており、自分で貯める

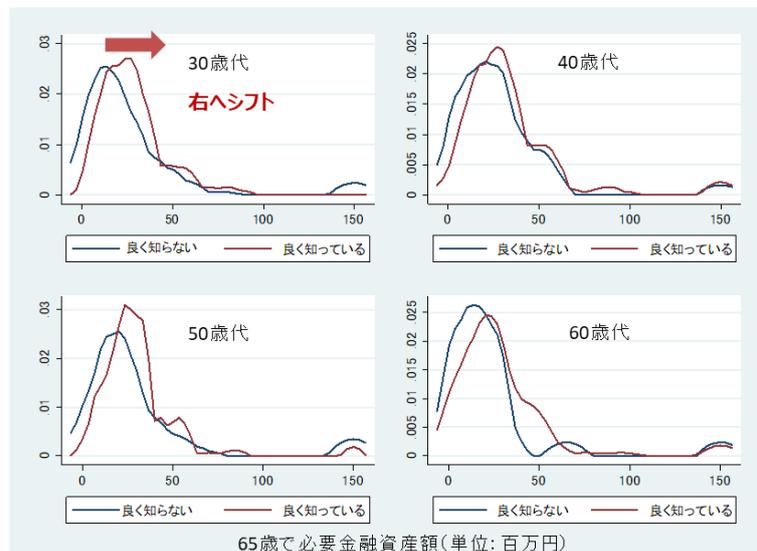
必要があることを認識するため、分布が右ヘシフトし、その予想の正確性が増すため、分布が集まるようになるものと考えられる。

図表3：ねんきん定期便に関する知識と65歳時点必要金融資産の分布（単位：百万円）

パネルA：男性



パネルB：女性



図表4は、1. ねんきん定期便を良く知らない人と、3. ねんきん定期便を良く知っている人の65歳時点必要金融資産額の平均値とこの2つのグループの平均値の差を表している。左側の男性の40歳代では、良く知らない人の必要金融資産額の平均値は18.7百万円、よく知っている人は29.2百万円、その差は10.6百万円であり、良く知っている人の必要金融資産額が有意に高い。女性では30歳代から60歳代までの全ての年代で、良く知っている人の必要金融資産額が有意に高くなっている。ね

んきん定期便は、年金加入期間や予測される年金受給額を確認できるが、それ自体では、将来どのくらい金融資産の蓄積が必要かを教えてくれるわけではない。ねんきん定期便により必要金融資産額が異なるのは、ねんきん定期便を受け取ったこと等により、老後の生活への関心や不安が高まることにより、ライフプラン設計を再考してみる効果だと考えられる。

図表4：ねんきん定期便に関する知識と65歳時点必要金融資産の違い（単位：百万円）

		男性			女性		
		ねんきん定期便 良く 知らない	ねんきん定期便 良く 知っている	差 (=知っている-知らない)	ねんきん定期便 良く 知らない	ねんきん定期便 良く 知っている	差 (=知っている-知らない)
30歳代	平均値 N	22.9 28	25.9 40	3.0 (4.0)	19.9 85	27.2 71	7.3 (2.6) ***
40歳代	平均値 N	18.7 45	29.2 73	10.6 (3.3) ***	23.3 65	29.5 116	6.2 (2.6) **
50歳代	平均値 N	23.5 62	27.8 92	4.3 (3.4)	21.6 40	28.1 161	6.4 (2.7) **
60歳代	平均値 N	22.5 20	25.9 80	3.4 (4.4)	17.1 21	24.6 89	7.5 (3.7) *

注:65歳に必要なと考える金融資産額の単位は百万円、***はウエルチ法による平均値の差の検定で1%有意水準、**は同5%、*は同10%を表す。

4—結論と課題

このようにねんきん定期便は、自分が加入する公的年金の加入状況や予測年金額を確認できるだけでなく、公的年金を通じた老後に備えた人生設計の改善に役に立っている可能性がある。しかし、当レポートの分析は、少ないサンプルデータを利用し、単純な方法によるものであるため、今後、ねんきん定期便の効果について詳細に分析する必要がある。特に、分析上、他の変数を考慮することや、老後の生活準備（ライフプラン設計）とねんきん定期便への関心には内生性（同時決定性）がある可能性を分析に考慮にいれる必要がある。ライフプラン設計に関心がある人が積極的にねんきん定期便を見ることにより、将来の年金受給額や自分で貯めておく必要がある金融資産額の正確性が増している可能性がある。また、今回の分析は2016年の1時点の分析であるが、ねんきん定期便の発送方法や内容には変化があり、このような変化を利用した厳密な分析も可能だと思われる。今後も、これらの点を考慮して分析を精緻化していく必要があるものと考えられる。

参考文献

厚生労働省(2016)『ねんきん定期便』

http://www.mhlw.go.jp/jigyo_shiwake/dl/h28_jigyoyou04a_day1.pdf

中嶋邦夫(2017)「年金改革ウオッチ2017年2月号～ポイント解説:「ねんきん定期便」のオンライン化」『保険・年金フォーカス』2017-02-07.

Mastrobuoni G. (2011) “The Role of Information for Retirement Behavior: Evidence based on the Stepwise Introduction of the Social Security Statement,” *Journal of Public Economics* 95, pp.913-925.

SSAB (2009) *The Social Security Statement, How it Can Be Improved. Technical Report*, Social Security Advisory Board.